

＜ 里地里山保全活動の自己評価シート（案） ＞

I 活動の概要（自身について、団体の概要、活動の内容や目的を整理）

I-1. 活動団体の概要について

活動団体名称	
活動主体の組織種別	
活動場所の地名・住所	

I-2. 団体の具体的な活動内容と活動目的

以下の具体的な活動のうち、あてはまるものに○（いくつでも）

＜具体的活動内容＞

<input type="checkbox"/> 環境保全型農業 <input type="checkbox"/> 耕作放棄地の活用 <input type="checkbox"/> 森林管理手法の継承 <input type="checkbox"/> 草地・田畑管理手法の継承 <input type="checkbox"/> 森林・農地連携による循環利用継承 <input type="checkbox"/> 農産物ブランド化	<input type="checkbox"/> 農産加工品開発・販売 <input type="checkbox"/> オーナー制度の運営 <input type="checkbox"/> 森林、竹林等の整備 <input type="checkbox"/> 林産物利用技術開発 <input type="checkbox"/> バイオマスエネルギー利用
--	--

左の欄で○をつけた場合、
対応する以下の活動目的に
○をつける（複数可）↓

＜活動目的＞

ア. 農林業を通じた持続的な
 管理・利用、バイオマスなど
 新たな資源としての利用

<input type="checkbox"/> 良好な景観の保全・活用 <input type="checkbox"/> 伝統的衣食住文化の保全・活用 <input type="checkbox"/> 伝統的な維持管理技術の継承	<input type="checkbox"/> 景観・文化を基盤とした新たな プログラム開発 <input type="checkbox"/> 伝統的衣食住文化、景観の記録 <input type="checkbox"/> 地域（集落）との交流
---	--

イ. 良好な景観の保全、伝統的
 生活文化の智慧や技術の継承

<input type="checkbox"/> 自然観察会・ガイドツアー <input type="checkbox"/> グリーン・ツーリズム、エコツーリズムを展開 <input type="checkbox"/> 自然体験・農林漁業体験・農村生活体験プラン等の提供	<input type="checkbox"/> 学校・企業等への環境学習の場の提供 <input type="checkbox"/> 講習会・研修会等の実施 <input type="checkbox"/> 活動リーダー等の人材育成
---	---

ウ. 環境教育や自然体験、エコツーリズム等の場としての利用

<input type="checkbox"/> 野生生物生息・生育地保全 <input type="checkbox"/> 外来生物（動物・植物）の駆除 <input type="checkbox"/> 自然再生・ビオトープ整備 <input type="checkbox"/> 科学的・計画的な森林管理	<input type="checkbox"/> 鳥獣害対策 <input type="checkbox"/> モニタリング調査 <input type="checkbox"/> 生息・生育状況等の調査・研究
--	--

エ. 野生動植物やその生息地の保全・管理



II-3 「活動評価」（p3～4）
 では、ア～エの活動目的ごとに
 チェックします。

【その他（ア～エ以外の分野での活動内容）】 ※団体による記載（任意）
--

II. 活動の自己評価（自身が行う活動に対して、設定された指標項目に従ってチェック）

II-1. 活動する里地里山の状況

Aは活動場所の面積（複数ある場合は合計）を記入、B・Cはそれぞれあてはまるものに○をつけ、それらの点数の合計を右端二重枠内に記入。

A 活動場所の面積（単位も含めて記載）：				
B 活動場所の面積（あるいは数）の変化	・拡大傾向（活動場所が増えている）	()⇒	3点	
	・変化なし	()⇒	2点	
	・縮小傾向（活動場所が減っている）	()⇒	1点	
	・把握していない	()⇒	0点	
C 活動場所の土地利用状況	・二次林・農地・ため池など多様な環境要素が含まれモザイク的	()⇒	3点	B・C合計 (里山環境点)
	・二次林中心など比較的単純な土地利用	()⇒	2点	
	・農地のみなど単一の土地利用	()⇒	1点	
	・把握していない	()⇒	0点	
				点

II-2. 活動の広がり と 多様さ

D～Hで、それぞれあてはまるものに○をつけ、それらの点数の合計を右端二重枠内に記入。

D 活動継続年数	・10年以上	()⇒	3点	
	・3年以上10年未満	()⇒	2点	
	・3年未満	()⇒	1点	
	・把握していない	()⇒	0点	
E 年間活動回数	・増加傾向	()⇒	3点	
	・変化なし	()⇒	2点	
	・減少傾向	()⇒	1点	
	・把握していない	()⇒	0点	
F 活動主体が行うプログラム等への参加者数	・増加傾向	()⇒	3点	
	・変化なし	()⇒	2点	
	・減少傾向	()⇒	1点	
	・プログラム等を行っていない	()⇒	0点	
	・把握していない	()⇒	0点	
G 活動に参加・協力する人々の年齢層	・幅広い世代	()⇒	3点	
	・数世代	()⇒	2点	
	・ほぼ単一世代	()⇒	1点	
	・把握していない	()⇒	0点	
H 活動に参加・協力する人々の多様さ	・地域内・外の人々がともに活動	()⇒	3点	D～H合計 (里山活動点)
	・地域内での活動に地域外の人々が参加・協力	()⇒	2点	
	・地域内（あるいは地域外）の人々を中心に活動	()⇒	1点	
	・把握していない	()⇒	0点	
				点

II-3. 活動目的ごとにみた活動評価



ここでは、I-2「活動目的」で○をつけた項目（ア）～（エ）についてのみ記入します。2ステップまたは3ステップでチェックを行うとともに、活動の効果を確認します。

（ア）～（ウ）の活動の評価（（エ）については、次頁）

STEP 1：（ア）～（ウ）の活動目的ごとのモニタリング指標項目（※1）について、「把握状況、評価基準」の欄の該当するもの（1～3）ひとつに○をつけます（※2の欄）。

STEP 2：※2欄の「1 または 2 に○（把握している）」の個数を数え、右端二重枠内に記入します。



客観的評価：※2欄で「1」に該当の場合、※3欄に記した効果がある活動であると評価できます。

（ア）農林業を通じた持続的な管理・利用、バイオマスなど新たな資源としての利用

※1 活動のモニタリング指標	※2 把握状況、評価基準 STEP1：1～3のうち、ひとつに○		※3 客観的評価 活動の効果	STEP2： 1または2 の○の数
a. 貴団体の活動場所における農林業従事者数	1. 近年、増加傾向	()⇒	農山村の生業や土地利用が継承されている	把握点 (ア)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
b. 耕作放棄地（放棄林）、遊休農地など人の手が入らなくなった里地里山の面積	1. 近年、減少傾向	()⇒	農山村の生業や土地利用が継承されている	把握点 (ア)
	2. 現状維持または増加傾向	()		
	3. 把握していない	()		
c. 環境保全型の農林業に取り組む農家の数（人数）	1. 近年、増加傾向	()⇒	環境保全型の農林業の取組が拡大している	/ 3点
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		

（イ）良好な景観の保全、伝統的生活文化の智慧や技術の継承

a. 里地里山の良好な景観を目的とした来訪者数	1. 近年、増加傾向	()⇒	地域自慢の（残したい）里地里山景観が維持・再生されている	把握点 (イ)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
b. 里地里山の伝統的な生活文化を基盤とした行事（祭事）への関わり	1. 維持または増加傾向	()⇒	里地里山の伝統的な衣食住文化の保全・活用に寄与している	把握点 (イ)
	2. 近年、減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
c. 地元住民の活動への協力・参加の状況	1. 継続的に協力が得られている	()⇒	参加者、協力者など活動にかかわる主体が増え取組が拡大している	/ 3点
	2. 関わりが途絶えがち	()		
	3. 把握していない	()		

（ウ）環境教育や自然体験、エコツーリズム等の場としての利用

a. 実施している活動への参加・協力者の数	1. 近年、増加傾向	()⇒	里地里山の価値に対する認識が向上している	把握点 (ウ)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
b. 里地里山を基盤とした環境教育、自然体験等のイベント・プログラムの数	1. 近年、増加傾向	()⇒	里地里山とのふれあいの機会を創出している	把握点 (ウ)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
c. 活動場所を環境学習・自然体験の場として活用する個人や団体（組織）の状況	1. 継続的に利用	()⇒	活動を通じて交流が拡大している	/ 3点
	2. 単発または	()		
	3. 把握していない	()		

(工) の活動の評価

STEP 1：モニタリング指標項目（※1）ごとに、把握の有無に○をつけます（※2-1の欄）。

STEP 2：把握している場合、評価基準に該当するかどうかをチェックします（※2-2の欄）。

STEP 3：※2-1欄で「1に○（把握している）」の個数を数え、右端二重枠内に記入します。



客観的評価：※2-2欄で「○」の場合、※3欄に記した効果があった活動であると評価できます。

(工) 野生動植物やその生息地の保全・管理

注) ※2-2欄の評価基準を満たすかどうか評価できるのは、※2-1で「1」に○をつけた場合のみです。

※1 活動のモニタリング指標	※2-1 把握状況 STEP1： 該当するものに○	※2-2 評価基準 STEP2： 以下の基準を満たす場合は○	※3 客観的評価 活動の効果	STEP3： 1の○ の数
a. 保全や研究に力を入れている動植物の状況	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	保全や研究に力を入れている動植物があり、それらに目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div>
b. 活動場所で見られる動植物の種リストの作成状況	1. 作成している ()⇒ 3. 作成していない ()	分類群の数または種リストの種数が増加 ()⇒	里地里山に生育・生息する動植物を把握できている	
c. 大型哺乳類の生息状況	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	著しい増加・拡大傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
d. ワシタカなど食物連鎖の上位に位置する動物の有無	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
e. 竹林の有無	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	著しい増加・拡大傾向がない ()⇒	外来種等による里地里山の荒廃を防いでいる、または影響が少ない	
f. 山菜やキノコ類の生育状況	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
g. 雑木林に咲く山野草の生育状況	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
h. 里地里山の環境を荒らしたり、他の生物に悪影響を及ぼすなど、困っている（駆除したい）外来種の有無	1. 把握している ()⇒ 3. 把握していない ()	困っている外来種がない。又はそれらが減少・縮小傾向にある ()⇒	外来種等による里地里山の荒廃を防いでいる、または影響が少ない	

Ⅱ-4. 活動により得られた成果

STEP 1：下にあげた活動の成果項目（1～10）のうち、該当するものに○をつけ、その個数の合計を表下二重枠内に記入します。なお1～9に挙げた以外の活動成果がある場合、「10」の枠内に具体的な成果を記入のうえ○をつけます。

STEP 2：今後の目標とする成果項目について、右の色枠欄に○を付けます。左太枠内との重複（現在の成果を継続的に目指す）や複数選択も可能です。

STEP 2：
今後の目標としたい
成果項目に○↓

（活動の成果項目）

STEP1：現在の成果↓

1	活動を通じて、地域の里地里山の自然環境が適切に保全・管理されている。	()	⇒	1 ()
2	活動に対して、行政等による補助、表彰、メディアに取り上げられるなど外部の評価が得られた。	()	⇒	2 ()
3	多様な主体との連携、他団体等の支援による資金確保など、取組の実施体制が確立した。	()	⇒	3 ()
4	里地里山の農林産物等の販売・流通により、一定の収入が得られるなど、生業や新たなビジネスの創出につながっている。	()	⇒	4 ()
5	地域を訪れる人が増えた。	()	⇒	5 ()
6	里地里山に対する価値観の変化、理解の醸成につながっている。	()	⇒	6 ()
7	住民どうしの新たな交流など、活動を通じて関係する地域（集落）内のコミュニティ活動が活発化した。	()	⇒	7 ()
8	里地里山の保全・活用に向けた人材の確保、育成につながっている。	()	⇒	8 ()
9	新しいアイデアによる取組や提言活動などを通じて、里地里山の保全・活用に向けた機運が高まっている。	()	⇒	9 ()
10	その他（ある場合は具体的な成果項目を記入） ※団体による記載（任意）	()	⇒	10 ()
		成果点	/10点	

Ⅲ-1ハ

<自己評価結果>

Ⅱ-（1～4）で採点した二重枠内の結果を以下の表内に記入し、右の太枠内に現在の活動の合計得点を算出します。（Ⅱ-3の把握点については、活動目的（ア～エ）が複数の場合は、その合算を記入）

<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> ア イ ウ エ </div>								
Ⅱ-1 里山環境点	+	Ⅱ-2 里山活動点	+	Ⅱ-3 目的別把握点	+	Ⅱ-4 成果点	=	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 今回の自己評価点は 点 </div>

☆自己評価を継続的に行い、評価点をつけていくことで、自身の活動を経年的に比較・評価できます。

平成	年度	...								
	点		点		点		点		点	

Ⅲ. 今後（次年度以降）の活動目標（Ⅱの結果を踏まえた、団体自身による目標設定）

Ⅲ-1. 総合的な活動目標の設定

（１）では、前ページ（Ⅱ-4）の右色枠内で○をつけた成果項目の番号に○をつけ、その項目を今後の活動目標とします。また、目標達成に向けた具体的活動を予定している場合は、（２）に内容を記載。

（１）活動全体の目標：1（ ） 2（ ） 3（ ） 4（ ） 5（ ） 6（ ） 7（ ） 8（ ） 9（ ） 10（ ）
（２）目標達成のための具体策（記載方法自由：項目別（1～10）でも、活動全体についてでも可） ※団体による記載（任意）

Ⅲ-2. 活動目的ごとにみる活動の効果に応じた活動目標の設定

- （１）では、現在の結果としてⅡ-3の※3欄で活動の効果があったと評価された場合に○をつけます。
 （２）では、以下の「活動の効果」を今後の目標とする場合に○をつけます。（重複可、複数可）
 （３）では、目安となる指標の数値目標や、地域特性や団体の規模等に応じたその他指標を設定します。

活動目的	活動の効果	(1) Ⅱ-3 ※3結果	(2) 今後の 目標		目安となる指標 （*Ⅱ-3参照）	(3) 数値目標、 その他の指標
ア （農林業）	農山村の生業や土地利用が継承されている			⇒	・農林業従事者数 ・耕作放棄地等面積	
	環境保全型の農林業の取組が拡大している			⇒	・環境保全型農家数	
イ （良好な景観や文化）	地域自慢の（残したい）里地里山景観が維持・再生されている			⇒	・里地里山来訪者数	
	里地里山の伝統的な衣食住文化の保全・活用に寄与している			⇒	・伝統的行事（祭事）への関わり	
	参加者、協力者など活動にかかわる主体が増え取組が拡大している			⇒	・地元住民の参加協力状況	
ウ （環境教育等）	里地里山の価値に対する認識が向上している			⇒	・活動への参加・協力者数	
	里地里山とのふれあいの機会を創出している			⇒	・里地里山関連のイベント、プログラム数	
	活動を通じて交流が拡大している			⇒	・活動場所を活用する個人、団体等	
エ （野生動物植物）	活動場所に生息する野生動物植物が適切に保全・管理されている			⇒	・大型哺乳類の生息状況 ・食物連鎖上位種の有無 ・山菜・キノコ類の生育状況 ・山野草の生育状況	
	里地里山に生育・生息する動物植物を把握できている			⇒	・動物植物種リスト作成状況	
	外来種等による里地里山の荒廃を防いでいる、または影響が少ない			⇒	・竹林の有無 ・困っている外来種の有無	